

# Fusyo Collaboration letter



1月 22日 No.32 文責 廣田 秀俊

## これからの附属を考える

大分県教育庁 武野太教育次長をお迎えして、1月14日(火)に小中合同の研修会を行いました。「これからの附属に期待すること」という内容でのご講演をいただきました。

学力調査の結果チャートから、地域や家庭との連携・自己有用感の高まり・規範意識等、データをもとに、同一集団の比較をしていきました。

自己有用感においては、自分には良いところがあることを小学校の時から思いをもたせていくことが大切であり、大人が注意していくことで学校が落ち着いた環境となっていくことなど、学校の在り方に注目していきました。



また、小中連携においては、小学校6年生と中学校1年生の交流などを通して、身近に目標とする先輩の存在がいることで、縦のつながりが保たれていくことや、外国語や総合的な学習の時間など授業に関する交流等において、教職員の交流も行われていくことなど、今後の展開等も考えていく内容を提示してもらいました。



附属として、先進的な研究を重ね、半歩でも先を走る情報発信を行っていくことが大切であることを改めて認識していきました。

今後さらに必要となる事柄として、キーワードに掲げられたのは“エージェンシー”です。変化を起こすために自分で目標を設定し、ふり返り、責任を持って行動する能力です。自分を高める力や他者とつながる力を発揮するために、未来を切り開く意欲を育み、主体性や想像力等を備えた社会の創り手の育成が必須となってきます。



AI時代の中でも、リアル((対面による授業や体験活動)とデジタルを組み合わせることにより、教育効果の最大化を目指していくことが、これからの附属に期待される事柄となっていくのだと考えられます。

※写真はチーム遊びの様子と中学生へのインタビューの様子を掲載しています。

